

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 中間評価

学校名	唐津市立鬼塚中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導上の課題があり、学習規律・ルールの定着が不十分であったため、1人1台端末の活用については課題が残った。来年度は「唐津の学びスタイル」の「期待感」「存在感」「効力感」「充実感」を感じさせる取り組みを意識し、単元ごとの計画・評価について校内研修を行い、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める必要がある。 ・生徒指導の課題やいじめ問題への対応として、全職員が「チーム鬼塚」として組織的に対応することができた。今後は、未然に防止するための開発的な生徒指導や、集団づくり・仲間づくりの取り組みをさらに充実させていきたい。 ・不登校対策として、校内の連携、各種専門家・外部機関との連携をとりながら取り組むことができた。しかし、不登校生徒数は増加しており、原因が分かりづらいなど困難な事例が増えているため、教育相談体制を見直し、取り組みの改善が必要である。
2 学校教育目標	『感動 感謝 思いやり』 ～ 関わり合い、支え合い、認め合う学校づくりをとおして ～
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 知：「関わり合い、支え合い、認め合う」活動を重視することで、子どもが「唐津の学びスタイル」の「期待感」「存在感」「効力感」「充実感」を感じながら学ぶ場面を増やし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める。 ② 徳：「関わり合い、支え合い、認め合う」活動や開発的な生徒指導（発達支持的生徒指導）を全職員で取り組むことで、子どもの豊かな心を育み、人間関係づくりを充実させ、生徒間トラブルを減少させる。 ③ 体：「関わり合い、支え合い、認め合う」活動の中で、健康教育・安全教育を行う。また、教育相談体制を充実させる。

4 重点取組内容・成果指標				主な担当者	
(1) 共通評価項目					
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組		
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践により、生徒が主体的に学習に取り組める授業を展開、ICTの活用を行い、振り返りで、4つの感の特に、「充実感」を感じること増やす。	・生徒アンケートで、「単元のゴールを意識して、一時間毎の授業に意欲的に取り組んでいる」の問いに、肯定的な回答の生徒の割合80%以上。 ・生徒アンケートで、「目標をもって家庭学習に取り組んでいる」の問いに、肯定的な回答の生徒の割合70%以上。	・生徒が目標をもって授業に取り組めるよう、単元のゴールを明確に示し、そのゴールに向けて1時間の授業のまとめや振り返りの充実を図り、自己の学習状況の把握を促す。 ・授業の振り返りや生徒の実態に応じた家庭学習の充実を通して、基礎・基本の定着を図る。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価の保護者および生徒アンケート「感謝と思いやりの気持ちを育てる指導を行っている」の達成率をそれぞれ80%以上	・人権・同和教育を根幹におき、道徳教育や特別活動を充実させ、仲間づくりを推進し、豊かな心を育む教育を推進する。	・道徳教育推進リーダー ・人権・同和教育担当者 ・各学年主任	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・日常の生徒観察や教育相談アンケート(こころのとびら)を年10回実施する。生徒指導部会と教育相談部会で連携し、SCやSSW、SSF、外部機関などとの連携強化を図る。	(主)生徒指導主事 (副)各学年主任	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・学校教育活動の中で、生徒に役割・出番・承認の場を増やす。 ・キャリア・パスポートの活用により、生徒の良さと成長を積極的に見とり、認める場をつくる。 ・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	(主)教務主任 (副)各教科主任・各学年主任	
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上	・毎日の給食時の放送で、食に関する様々なトピックスを紹介する。 ・毎月、残菜チェックを行い、生徒会保健部で残菜0の呼びかけを行う。 ・保健だよりを発行する。	・給食指導担当 ・養護教諭 ・生徒指導主事	
	○「安全に関する資質・能力の育成」	○「交通安全や防災を意識して生活している」生徒80%以上	・学校安全計画に基づき、各教科、領域等による安全教育を計画的に推進する。	・安全教育担当	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の設定	・管理職	
	○事務システムポータル及び校務システムの有効活用	○校務システムを毎日2回チェックする職員100%	・業務上の資料配布や事務的な連絡事項をシステム上で行う。	・管理職	
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				主な担当者	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組		
○不登校対策	○教育相談運営体制の充実と不登校生徒への支援拡大	○昨年度より不登校生徒数を減少させることを目標とする。本項目は数値目標はそぐわない面もあるので、不登校対策委員会にて相互に質的評価を行う。	・SC、SSW、SSF等外部機関との連携を強化する。 ・ケース会議を工夫し有効な支援策を探る。		・教育相談担当 ・養護教諭
○信頼される教職員としての意識向上	○教職員として高い倫理感と規範意識の向上	○組織の一員であることの自覚と日常におけるコンプライアンス意識を強化するとともに、服務規律堅持100%を目指す	・職員会議などにおいて服務規律における指導を行う。		・管理職
○地域に開かれた学校づくり	○地域・保護者と連携した開かれた学校づくり	○学校評価アンケートで、地域に開かれた学校づくりに取り組んでいる70%以上を目指す。	・育友会をはじめ、地域と連携した活動を行う。	・管理職 ・学年主任 ・進路指導主事 ・全職員	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
--------------------	---